

事務連絡「労災保険に係る訴訟に関する対応の強化について」（以下「改正事務連絡」という。）における新件協議に準じて実施することとするが、改正事務連絡の記の4及び5に係る対応については、訴訟支援の対象とする事件の担当中央労災補償訟務官（以下「担当訟務官」という。）と協議の上、必要に応じて修正して対応する。

- (4) 都道府県労働局労災補償課と担当訟務官は、訴訟支援の対象とする事件の進捗状況を踏まえ、労災保険審理室が訟務支援を行う事項や訴訟支援の具体的内容について随時協議を行い、必要な見直しを行う。

4 訴訟支援の対象とする事件以外の事件に係る新規提訴事件協議の取扱い

- (1) 訴訟支援の対象とする事件以外の新規提訴事件の新件協議については、精神疾患事件、脳・心臓疾患事件及び石綿関連疾患事件は原

則全件新件協議を行うこととし、それ以外の新規提訴事件については、都道府県労働局の労災補償業務の状況や新件協議の必要性を踏まえ、新件協議を実施するか否かについて労災保険審理室と協議する。

- (2) 新件協議を行わない新規提訴事件は、改正事務連絡の記の3に基づき、必ず書面等による協議を行う必要があることに留意する。

5 その他

- (1) 平成31年度以降における取扱いについては、平成30年度の実施状況や問題点を検証し、改めて取扱いの方針を示す。
- (2) 訟務担当者の参考となるよう、近年の裁判例（精神疾患事件、石綿関連疾患事件等）のうち、業務の参考となり得る事件の準備書面例・医師意見書例を情報提供することを予定している。



内外の被害560人超

兵庫●クボタショック14年集会

6月22日、尼崎市内で「クボタショック」から14年、アスベスト被害の救済と根絶をめざす尼崎集会」が開催された。

2005年の6月、大手機械メーカーのクボタの旧神

崎工場で、中皮腫や肺がん等の石綿関連疾患を発症した社員（退職者含む）が過去10年間で51人

年齢	死亡者総数	男性	女性
～39	6	5	1
40～49	26	18	8
50～54	26	16	10
55～59	44	25	19
60～64	50	26	24
65～69	59	33	26
70～	117	52	65
合計	328	175	153

クボタ(全社)における労働者被害(括弧内は中皮腫患者数、2018.12.31現在)

年度	死亡者数	年度	死亡者数	年度	死亡者数	年度	死亡者数	年齢	死亡	療養中	合計
1976	1 (0)	1991	8 (5)	2001	7 (4)	2011	6 (0)	～44	0 (0)	0 (0)	0 (0)
1978	1 (0)	1992	6 (4)	2002	6 (5)	2012	6 (2)	45～49	5 (2)	0 (0)	5 (2)
1979	1 (0)	1993	4 (2)	2003	9 (5)	2013	7 (2)	50～54	10 (6)	0 (0)	10 (6)
1982	2 (0)	1994	4 (4)	2004	14 (5)	2014	2 (1)	55～59	20 (14)	0 (0)	20 (14)
1985	2 (1)	1995	4 (3)	2005	11 (4)	2015	7 (2)	60～64	27 (14)	1 (0)	28 (14)
1986	1 (1)	1996	4 (3)	2006	10 (4)	2016	9 (3)	65～69	39 (22)	0 (0)	39 (22)
1987	3 (2)	1997	1 (0)	2007	11 (3)	2017	10 (7)	70～74	33 (12)	2 (0)	35 (12)
1988	2 (2)	1998	8 (2)	2008	9 (3)	2018	1 (1)	75～79	42 (11)	9 (0)	51 (11)
1989	2 (0)	1999	6 (3)	2009	2 (0)	合計	202 (88)	80～	26 (7)	15 (0)	41 (7)
1990	2 (1)	2000	5 (2)	2010	8 (2)			合計	202 (88)	27 (0)	229 (88)

死亡していたことが明らかになった。クボタは1954年以降、石綿水道管を製造し、約25万トンの石綿を使用。最も危険なクロシドライト（青石綿）を1975年まで使用していた。

深刻なアスベスト被害は社内にとどまらず、旧工場周辺に居住していた3名の被害者が胸膜中皮腫を発症し、実名を公表してクボタのアスベスト公害を告発した。クボタは患者、支援団体との話し合いのすえ、患者、遺族に対して2,500万～4,600万円の救済金を支払うことに合意した。

さらに、その後の調査で旧工場の周辺で中皮腫を発症した患者が88名（死者を含む）いることが判明。日本の公害被害の歴史上、類例のないアスベスト被害の凄まじさに日本社会は震撼した。連日マスメディアはクボタのアスベスト被害を報道。私たちの事務所にも被害や不安を訴える電話が殺到した。翌年2006年、政府は石綿健康被害救済法を成立させた。この一連の社会的事件を私たちは“クボタショック”と呼んでいる。

14年目を迎えた尼崎集会では、まずこれまで犠牲になった被害者に黙とうを捧げた。稲村和美尼崎市長が挨拶に立ち、アスベスト被害の救済に尽力する患者と家族の会や安全センターに敬意を表し、市としても国に対しアスベスト検診の制度化を求めるとともに、尼崎市のアスベスト被害の実態解明のための疫学調査を進めていると発言した。

被害者の訴えとして、千歳恭徳

さん（胸膜中皮腫、患者と家族の会関東支部）、西方秀夫さん（胸膜中皮腫、尼崎支部）、郡家滝雄（石綿肺、関西支部）さんが、それぞれご自分の思いや闘病生活について報告した。

尼崎労働者安全センターによれば、現在までクボタに救済金等を請求した被害者数は死亡者328人（男性175、女性153）、療養中が27人（男性15、女性12）にのぼっており、前年比で16人増えている。救済金請求者355人に労働者被害を合わせると560人。さらに下請の運送業者、関連工場、隣接する工場での被害者を

合わせると実際の被害者は600人に達しているとのこと。クボタのアスベスト公害は終わっていないことがよくわかった。

最後にアスベスト被害の救済と根絶をめざす尼崎集会の宣言が朗読され、参加者260名の大きな拍手で採択された。

アスベスト公害の震源地である尼崎市でも、クボタショックの風化が進んでいるとのこと。あのクボタショックの衝撃を忘れることなく、アスベスト被害の救済と根絶に向けた決意をしっかりと胸



（東京労働安全衛生センター）

三日工程の徳島-東京往復業務 徳島●トラック運転手の脳出血労災認定

徳島県在住のAさん（66歳）は、24歳からトラックの運転手をしてきた。現在の運送会社で勤続26年になる。4年前から、3日行程で徳島から高松-東京間を往復する郵便物配送者担当するようになった。1日目、15時頃に出社し、トラックの整備などを行い、16時ごろに空車で往路出発。高松に向かう。決まった積み込み時間前に余裕をもって就いた上で、食事して軽く仮眠をしながら待機。21時に高松で荷の積み込みをし、東京に向かう。2日自にあたる翌日朝8時には東京で荷を降ろし、その後、食事、休憩、仮眠となる。3日目の深夜2時、再び東京

で新たに積み込みし、復路となる。高松で荷卸し、徳島の会社に16時前後に到着して、帰宅。そして、次の日の15時には、また出社して、3日かけての高松-東京間の往復を繰り返していた。

昨年11月初旬、労働基準監督署の臨検が会社に入り、Aさんともう一人の運転手の乗務時間が長いことの改善を求められた。会社はAさんに高松-東京往復3日間の時間行程を次のように変更させた。

1日目は、いままでより5時間遅い夜の20時に空車で往路出発。日付が変わる2日目の0時に高松での荷積みをし、東京に向かう。

クボタ旧神崎工場における住民被害(救済金書類提出者、2019.6.15現在)

年	総数	男性(括弧内は年齢)	女性(括弧内は年齢)
1978	1	1(28)	
1980	1	1(41)	
1986	1	1(27)	
1987	1		1(26)
1988	1	1(61)	
1989	3	2(33, 41)	1(41)
1990	1	1(37)	
1991	1		1(59)
1992	2	1(73)	1(42)
1993	3	1(58)	2(65, 73)
1994	1		1(68)
1995	7	1(46)	6(49, 54, 58, 66, 70, 72)
1996	5	2(70, 80)	3(63, 63, 69)
1997	9	8(40, 42, 45, 46, 56, 66, 71, 72)	1(80)
1998	4	3(47, 50, 56)	1(51)
1999	6	3(42, 44, 45)	3(56, 60, 67)
2000	8	2(47, 58)	6(43, 51, 71, 73, 83, 87)
2001	9	3(53, 54, 67)	6(41, 52, 64, 64, 69, 76)
2002	9	4(39, 69, 72, 73)	5(56, 73, 77, 80, 88)
2003	6	4(51, 53, 71, 80)	2(55, 59)
2004	21	13(53, 54, 57, 59, 60, 62, 63, 63, 68, 70, 71, 76, 80)	8(48, 53, 60, 69, 71, 73, 77, 81)
2005	16	12(45, 48, 49, 53, 55, 55, 60, 63, 68, 72, 74, 75)	4(57, 66, 77, 78)
2006	22	12(49, 53, 54, 56, 57, 63, 66, 70, 73, 74, 77, 83)	10(58, 63, 66, 67, 67, 73, 74, 75, 78, 92)
2007	18	8(49, 57, 60, 66, 69, 74, 75, 87)	10(53, 54, 59, 62, 65, 70, 74, 74, 77, 86)
2008	24	11(50, 50, 55, 58, 62, 64, 65, 67, 79, 81, 87)	13(56, 59, 60, 60, 61, 64, 64, 72, 73, 74, 78, 80, 82)
2009	14	10(58, 59, 60, 67, 68, 73, 74, 77, [82], 92)	4(50, 57, 59, 60)
2010	23	11(58, 63, 68, 68, <69>, 70, 71, 71, 71, 72, 84)	12(52, 55, 57, 57, 58, 60, 61, 69, 70, 72, 78, 89)
2011	13	5(55, 59, 64, 65, 68)	8(65, 70, 76, 82, 83, 85, 85, 86)
2012	17	8(60, 62, 63, 64, 66, 73, 78, 80)	9(52, 62, [67], 68, 71, 72, [78], 80, 87)
2013	18	12(53, 54, 54, 57, 58, 58, 59, 64, 65, 65, 65, 73)	6(56, 62, 68, 76, 77, 82)
2014	14	8(54, 61, 62, 62, 66, 67, 68, 72)	6(46, 57, 69, 69, 71, 86)
2015	18	9(66, 66, 68, 68, 69, 74, 77, [78], 79)	9(62, 62, 69, 70, 74, 77, 80, 81, 93)
2016	17	9(55, 59, 59, 63, 63, 69, 79, 81, 90)	8(47, 63, 63, 65, 67, 67, 68, [95])
2017	5	4(47, 61, 61, 82)	1(70)
2018	7	4(68, 69, 69, 69, [92])	3(64, 69, 75)
2019	2	1	2(62, 74)
死亡計	328	175	153
療養中	27	15(53, 57, 59, 61, 65, 68, 68, 69, [69], 72, 73, 74, 77, 79, 84)	12(60, 60, 62, 67, 68, [69], 69, 74, 79, 79, 82, [87], 94)
合計	355	190	165

[]は肺がん、<>は石綿肺、それ以外は中皮腫 下線は未払い21人(支払い決定334人、うち現在療養中26人)
 労災認定(時効救済含む)6名は総数より除外、前頁中段に年齢別内訳表を掲載